

# じどうしつだより No. 59 (2007. 4発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだえほん

本の情報	内容
<p><b>「あたしもびょうきになりたいな！」</b></p> <p>フランツ＝ブランデンベルクさく アリキ＝ブランデンベルクえ 偕成社 1983.7 1109073782</p>	<p>弟のエドワードが病気になった。お父さんもお母さんもおばあちゃんも、みんながエドワードにやさしくする。わたしはなんでもひとりではやんなきゃならない。「わたしもびょうきになりたいな！」エリザベスはいった。そうしたらほんとに病気になっちゃた。うれしいはずのエリザベスだけど…。</p>
<p><b>「おこりんぼうのアングリー」</b></p> <p>ライマ作 朔北社 2006.12 1109097630</p>	<p>蚊のポータンはおこりんぼうの血がだいすき。ある日かいじゅう国のアングリーがポータンにさされてしまった。さされたアングリーが大声でほえると、口からまっかな炎が出て、何をしても止まらない。さあ、たいへん！</p>
<p><b>「子リスのアール」</b></p> <p>ドン・フリーマンさく BL出版 1109068924</p>	<p>子リスのアールはいつも友だちのジルからドングリやマフラーをもらっている。ある日、アールは母リスから自分でドングリを見つけるように言われる。アールはドングリを求めて森をさまよう。ようやくドングリの本をみつけるが、そこには…。アールは無事ドングリを手に入れられるのか？</p>
<p><b>「草原の少女プージェ」</b></p> <p>関野吉晴著 小峰書店 2006.12 1109097372</p>	<p>旅の途中のモンゴルの草原で遊牧民の少女プージェと著者は出会った。6歳で馬を乗りこなし、家畜の世話をする少女。自由主義経済が招いた遊牧民の悲劇の中を短いながらもたくましく生きた少女との心に残るふれあいを描いた写真絵本。</p>
<p><b>「ソルビム お正月の晴れ着」</b></p> <p>ペ ヒョンジュ絵と文 セーラー出版 2007.1 1109100422</p>	<p>きょうはお正月。オンマがぬってくれたソルビム（晴れ着）のチマ・チョゴリ。深紅の絹のチマにセットンチョゴリ、白くてかわいいうソソ、背中にたれる金箔をおしたテンギ。韓国の民族衣装チマ・チョゴリとその着方を紹介する美しい韓国の絵本。</p>
<p><b>「水色の足ひれ」</b></p> <p>佐藤まどか作 大西ひろみ絵 BL出版 2006.12 1109134270</p>	<p>9歳の誕生日に父さんが水色の足ひれと水中メガネのセットを買ってくれた。大切な足ひれをなくしてしまった。それをひろった良太君は足が一本しかない。足ひれのことをいえないまま良太君と友だちになった。ぼくの足ひれに気づいた良太君は…。やさしいタッチの絵がお話とマッチした絵本。</p>